

# 水田農業におけるため池が果たす国土保全

## 1. 国土保全に対する国民的関心



—[集中豪雨]による甚大な洪水被害—

＜近年の豪雨被害＞

平成15年	8月	台風10号	北海道 死者 6名 行方不明者 5名 浸水(床上・床下) ≒440棟
平成16年	9月	台風21号	九州, 四国, 近畿, 北陸, 東海 死者 26名 行方不明者 1名 浸水(床上・床下) ≒20,000棟
	10月	台風23号	四国, 北部九州, 近畿, 東海, 甲信 死者 95名 行方不明者 3名 浸水(床上・床下) ≒55,000棟
	7月	梅雨	福井, 新潟, 福島 死者 15名 行方不明者 1名 浸水(床上・床下) ≒8,300棟
平成17年	9月	台風14号	九州, 四国, 山陽, 関東 死者 26名 行方不明者 3名 浸水(床上・床下) ≒23,600棟
平成18年	7月	梅雨	九州, 山陰, 長野 死者 9名 行方不明者 2名 浸水(床上・床下) ≒9,000棟

H16年台風21号により決壊した淡路島の老朽ため池(下写真:上流から下流を望む)。一歩間違えば下流民家に甚大な被害が発生した。農村の過疎・高齢化等により管理不十分な老朽ため池が増加していることが問題。



—[カラ梅雨]による深刻な渇水—

＜天竜川における渇水日数の変化＞

S50～S59年	17日/年
S60～H6年	34日/年
H7～H16年	72日/年

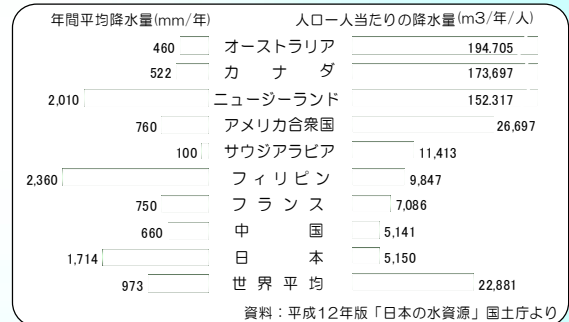
平成の大渇水であるH6年を除くH7～16年でも大幅に渇水日数が増加している。

＜日本における真夏日の将来予測＞

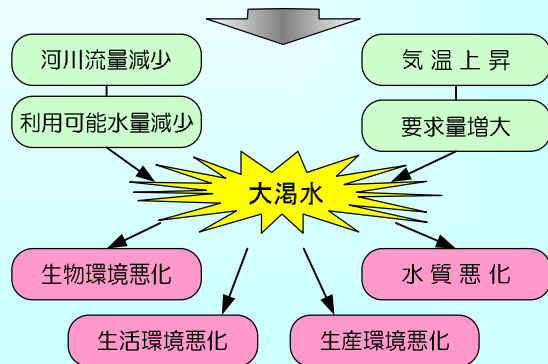
2050年の真夏日 ≧ 100日

※国立環境研究所, 東京大学気象システム研究センターによる予測

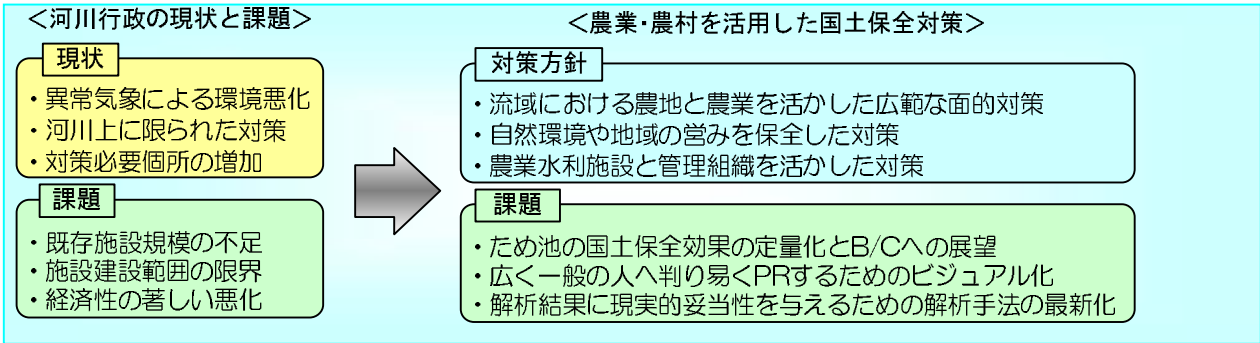
＜人口一人当たりの降水量＞



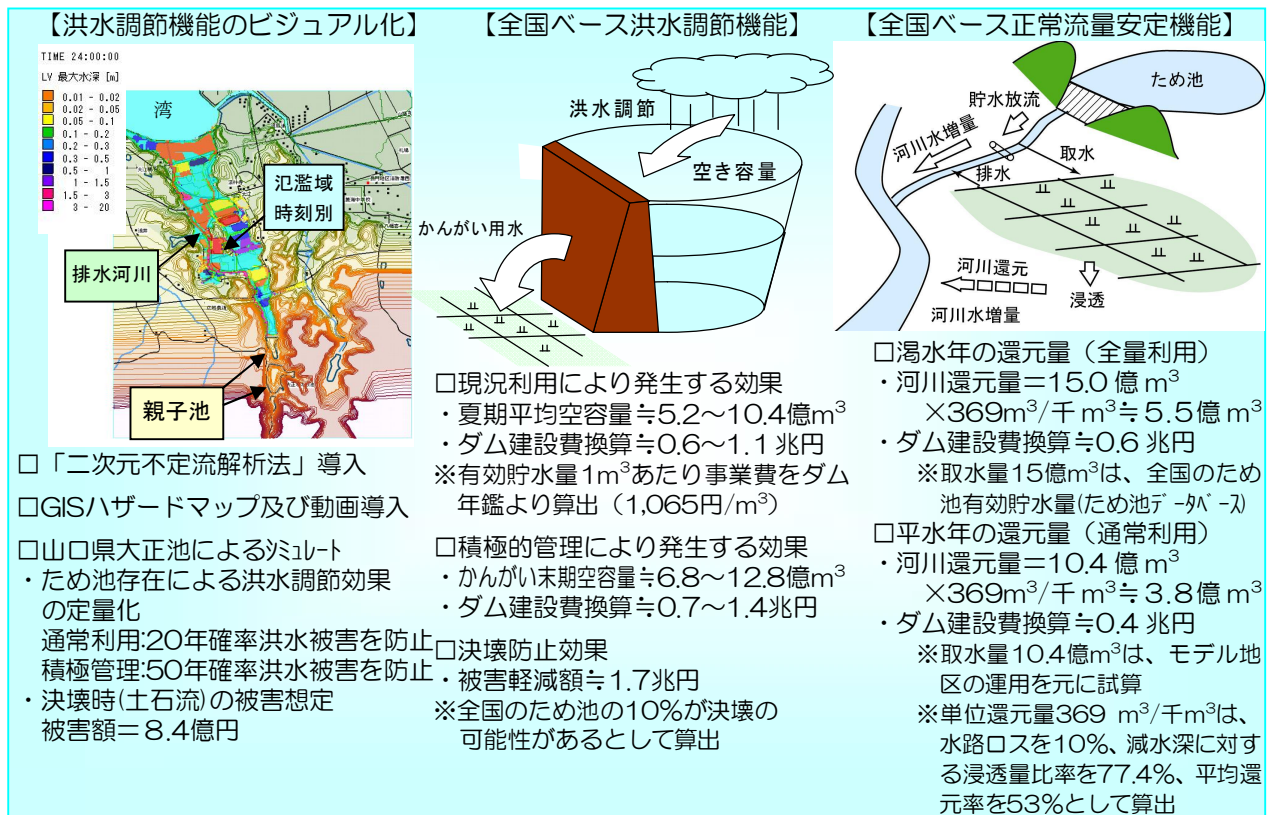
日本は年間降水量は多いが、人口一人当たり換算では決して水量は豊富とは言えない。



## 2. 洪水防災・水資源保全への取り組み



## 3. ため池の持つ国土保全機能の検証



## 4. 今後の検討方向と課題

